

事業者排出量削減報告書

住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪府池田市ダイハツ町1番1号								
氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	ダイハツ工業株式会社 取締役社長 箕浦 輝幸								
事業者の主たる業種	自動車製造業 3011								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))								
計画期間	平成20年4月 ~ 平成23年3月								
基本方針	省エネ設備の導入やロス低減活動により、出荷額当り排出量の1%削減を目指す								
推進体制	工場長を統括者とする環境保全組織により、エネルギー削減計画の推進・フォローを行う。								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001							
	適用範囲	京都工場							
取得年月日	平成10年9月30日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20	暖房機	暖房機燃料を一部灯油から都市ガスへ変更。						
	平成20	ボイラー	大型水管ボイラーを複数台の小型貫流ボイラー更新し、待機ロス削減を実施。						
	平成21	暖房機	暖房機燃料の燃料転換 (重灯油から都市ガスへ変更) を機器更新に併せ実施する。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (19) 年度 (二酸化炭素換算)	目標年度 (計画) (22) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度 (実績) (20) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	42,463 t	41,189 t	-3.0 %	37,780 t	-11.0 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	742 t	720 t	-3.0 %	595 t	-19.8 %			
	排出合計	*1 43,205 t	*2 41,909 t	-3.0 %	*4 38,375 t	-11.2 %			
	実績に対する自己評価	生産台数の減少、及び省エネ改善、効率化の実施により総排出量は減少。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)	報告年度 (実績)	増減率 (実績)		
	京都工場	二酸化炭素換算 出荷額	217 kg/百万円	208 kg/百万円	-4.1 %	228 kg/百万円	5.1 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
	実績に対する自己評価	生産台数が対前年度比20%減少した為 (出荷額は対前年比84%)、原単位が悪化した。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度 (計画)			報告年度 (実績)				
		取組量等	(二酸化炭素換算)		取組量等	(二酸化炭素換算)			
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
		(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	削減量等合計			*3 t	*5 t				
	差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)	報告年度 (実績)	増減率 (実績)			
		*1 43,205 t	(*2)-(*3) 41,909 t	-3.0 %	(*4)-(*5) 38,375 t	-11.2 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	使用燃料の変更 (重灯油を都市ガスへ燃料転換) による環境負荷低減。								
特記事項									

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標 (生産数量、延べ床面積、走行距離等) を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度 (計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度 (実績)」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度 (1990年度) を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実施、特定フロンなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。